

4 令和8年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を養うため、授業計画、日課時程の再検討に取り組む。</p> <p>②課題研究の進め方やシチズンシップの視点を取り入れた取組について、研究を進める。</p>	<p>①弾力的な Semester 制の運用や、生徒が主体的に授業計画を行う講座登録等のより継続的な運用を検討する。</p> <p>②シチズンシップ教育や課題研究プログラムの確立に向けて、授業研究を推進する。</p>	<p>①生徒が主体的に登録する弾力的な科目設定、講座設定、年間処理日程のめどが付いたので、継続的な運用を行う処理体制の構築を行う。</p> <p>②今年度から実施する課題研究プログラムについて、生徒の実態に応じた内容の精選や課題の整理を行う。</p>	<p>①複数担当による継続的な運用体制維持の枠組み、引き継ぎが行えたか。</p> <p>②職員間でシチズンシップ教育や課題研究プログラムの内容や課題について、共通理解を図ることができたか。</p>
2	生徒指導・支援	<p>①学校行事や部活動を生徒の視線から見直して充実させ、自己有用感の醸成に結び付ける。</p> <p>②外国につながりのある生徒への学習支援を含め、SC、SSWや外部機関とも連携した支援を進める。</p>	<p>①これまでのルールを整理し、生徒の意見を取り入れた学校行事や部活動を運営する。学校行事や部活動において地域と連携した取り組みを検討する。</p> <p>②生徒の見守りを日常的に学校全体で行う意識を持ち、SC、SSWや保健室などの専門職も含めた支援体制を構築していく。</p>	<p>①校外の施設等と連携するなど、地域と生徒が協働した学校行事や部活動を運営していく。計画的に実行委員を始めとする生徒の意見を取り入れた学校行事や部活動を運営する。</p> <p>②安心・安全に学校生活を送れるように、生徒の窓口となる担任が確実な相談・支援を行えるように教員研修などのサポートを組織的に行う。</p>	<p>①地域と連携した部活動の取り組みや学校行事の運営ができたか。生徒の意見を反映した学校行事が運営できたか。</p> <p>②支援体制の整備、職員全体への意識づけができたか。専門職と担任らの相互理解を通じて組織的で効果的な支援を行えたか。またそれらの事例を職員室で記録・共有する体制をとることができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	<p>①卒業後を見据えて、外国につながる生徒の学習や生活指導體制を整える。</p> <p>②生徒が自身や社会の課題に向き合い、解決に向けて学び続ける姿勢の涵養を図る。</p>	<p>①外国につながる生徒の進路指導についての情報共有や支援体制を整える。</p> <p>②キャリアガイダンスについて、外部の教育力の活用に取り組み、充実を図る。また外部テストを通じて生徒の進路意識の向上を図る。</p>	<p>①多文化コーディネーター、担任、総合推進グループ担当、キャリア支援で各生徒の情報を共有する。</p> <p>②各種講演会や、進路ガイダンス「産業社会と人間」において、外部講師による取組を実施する。また、外部テストの振り返りや活用方法について周知する。</p>	<p>①各所と情報共有しながら支援の協力体制を作ることができたか。</p> <p>②外部講師の活用や外部テストの利用を通じて、生徒の進路意識の向上や、キャリア開発につなげることができたか。</p>
4	地域等との協働	<p>①生徒一人ひとりが学校から地域等へ向ける視線を育み、ボランティアや地域等との協働に取り組む姿勢の涵養に取り組む。</p>	<p>①ボランティア活動や地域との協働を通して、生徒の自己理解や他者理解を進め、より良い社会の実現に主体的に関わろうとする態度を育てる。</p>	<p>①部活動や授業との連携を図り、生徒が主体的にボランティア活動や地域交流に参加できる仕組みを整える。</p>	<p>①生徒のボランティアや地域交流への関心を高め、主体的な参加につなげることができたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①総合学科としての多彩な事業に取り組むことを通して、教員の協働性や組織力及び教育力を伸ばす。</p> <p>②職場の協働性を育むことを通して、労働時間の短縮に取り組むとともに、不祥事を未然に防止する。</p>	<p>①総合学科教育研究会の各種事業や総合学科の特色について理解を深めるとともに、組織的な学校運営の充実を図る。</p> <p>①地域防災の中心としての役割を認識し、災害時における円滑な対応を組織全体で取り組む。</p> <p>②定期試験の全体運営、各科目の試験運営の負担軽減に努める。</p> <p>②より良い職場環境の改善に取り組む、業務の効率化に努める。</p>	<p>①総合学科の特色を活かしたプログラムの充実に向けて、職員間の情報共有を推進する。</p> <p>①職員への防災意識啓発のため、定期的な実践訓練を通じて各自の役割の再認識を行う。</p> <p>②百問繚乱の普及促進、試験の電子返却の運用、採点疑義のフォーム登録による一本化の促進</p> <p>②衛生委員会等を通じて、職場内における設備面の充実を図り、業務の効率化に努める。</p>	<p>①職員間の情報共有を推進し、教員の協働性や組織力を伸ばすことができたか。</p> <p>①防災訓練等により、迅速かつ適切な対応ができたか等、振り返りを行い、教職員内で共有できたか。</p> <p>②百問繚乱の普及率、電子返却の実施率が、前年度より向上したか。</p> <p>②オフィス改善にともないファイルやデータの整理を再考し、効率的な業務に反映できたか。</p>